

我孫子市長賞

なぜ税金は嫌われているか

我孫子市立湖北中学校 第三学年 貞賀 心助

私は今まで、税金についてあまり詳しく知りませんでした。そこで私は、この文章を書くにあたって、税金について調べてみました。その結果、日本は他の国に比べて税金が嫌われていることがわかりました。確かに、以前増税が発表されたときに、大人どころか、消費税十パーセントしか払っていないはずの私の友達も、増税されることを嫌そうに話していました。では、なぜ日本では税金が嫌われてしまっているのでしょうか。

税金は、あらゆるものに使われています。公立の学校や公園の建設、道路の修理、病院や介護施設の利用料金の一部免除のためにも税金が使われています。

私は、税金はとても良いシステムだと思います。理由は、税金は、子どもや高齢者などの、経済的な立場が「弱い人たち」に優しいシステムだからです。仮に、Aさんという大人がいたとしましょう。Aさんが子どもだったとき、Aさんが今支えている高齢者が当時「弱い人たち」だったAさんを支えてくれていました。また、Aさんが高齢者になったとき、今度は今Aさんが支えている子ども達が、大人になって、「弱い人たち」になったAさんを支えてくれます。この支え合いのシステムが、良いシステムではなく何でしょうか。

にもかかわらず、日本では税金が嫌われてしまっているのも事実です。私は、日本で税金が嫌われている理由の一つとして、国民が税金から受けている恩恵に気が付いていないことが挙げられる、と思いました。

ここで私は一つの出来事を思い出しました。小学校低学年の時、教科書の名前を丁寧に書かず殴り書きしてしまいました。母は私に、「もっと大切に使いなさい。そこになんて書いてある？」と注意しました。そこには、こんなことが書いてありました。

「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」

その時の私は、この文章の意味があまりよくわかっていなかっただけでなく、言われるまで書かれていることすら気が付いていませんでした。気づいていなかったのはきつと私だけではないのではないのでしょうか。探したり、調べたりすれば使い道がわかるのに、知る努力をしていないのではないかと考えました。つまり、自分が税金を支払っていることだけを気にして、「弱い人たち」だったとき、「弱い人たち」になるときに自分が税金から受ける恩恵に気がついていない、という状況に陥ってしまっているのです。

もしも本当にそれが理由の一つであるとしたら、国は、今よりもっと、税金の使い道や国民が受けている恩恵をアピールし、国民は、自分が払った税金がどんなことに使われているか、知る努力をするべきだと思います。